

平成30年度 第1回 淀川区子ども教育会議  
議事要旨

日時 平成30年7月4日(水) 19:00~20:35

場所 淀川区役所 5階 503会議室

出席者 委員：岡田 崇 氏

久保 みのり 氏

小寺 優 氏

坂井 肇 氏

泉水 清治 氏

辻川 松子 氏

出口 和彦 氏

増田 裕子 氏

松村 祥 氏

事務局：淀川区担当教育次長	山本 正広
淀川区教育担当部長	中喜多 孝之
淀川区教育担当課長	榊原 幸一
淀川区教育担当課長代理	佐多 隆彰
教育政策課 担当係長	岡田 征憲
大阪市立東三国中学校長	宮脇 敬市
大阪市立北中島小学校長	俵 正典

傍聴：0名

《会議資料》

- 資料1 H29 運営に関する計画 区から依頼した取り組みの反映状況と評価結果【小学校】  
(睡眠習慣改善にかかる取り組み)
- 資料2 H29 運営に関する計画 区から依頼した取り組みの反映状況と評価結果【中学校】  
(睡眠習慣改善にかかる取り組み)
- 資料3 H30 運営に関する計画 区から依頼した取り組みの反映状況【小学校】
- 資料4 H30 運営に関する計画 区から依頼した取り組みの反映状況【中学校】
- 資料5 H30 運営に関する計画 区から依頼した取り組みの反映状況及び実施計画【中学校】
- 資料6 教育行政連絡会での校長アイデア
- 参考** 事前アンケートによる校長アイデア
- 資料7 平成30年度事業予定一覧
- 資料8 淀川区区政会議第1回教育・子育て部会 意見の一部
- 資料9 報道発表資料 大阪市立小学校・中学校に音声応答装置を導入します
- 資料10 子ども見守り放送に関して区に寄せられたご意見
- 参考資料1 平成30年度第1回教育行政連絡会(小学校)議事要旨
- 参考資料2 平成30年度第1回教育行政連絡会(中学校)議事要旨

《次第》

司会：教育担当課長

◎次長（区長）あいさつ

◎議題

《1 平成 29 年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の振り返り）》【公開】

《2 平成 30 年度 各校の運営に関する計画》【公開】

《3 次年度事業に向けたブレインストーミング》【公開】

《4 教職員の負担軽減に向けた取り組みについて》【公開】

《5 情報提供》【公開】

《6 その他》【公開】

・説明：区長、教育担当

・各議題について意見交換

## ご挨拶

山本次長（区長）

こんばんは。次長の山本でございます。

子どもの教育のことについてお話しいただく場だが、時期的に大阪北部地震のことについて少しだけお話しさせていただく。6月18日の朝に地震があり、区役所へ向かう途中で子どもの見守り活動をされている方を見かけたが、東淀川区ではその見守り活動に従事されていた方が亡くなり、高槻市では小学4年生の子が犠牲になってしまった。今回の震災でいろんな課題があったかと思うが、地域の皆さんともしっかり共有化して取り組んでいきたい。

現在、被災証明書の受付・発行を行っているが、淀川区は7月3日時点で24区の中で1番件数が多く150件受け付けている。5階の窓口で、相談や制度紹介等できるだけワンストップでできるようにしている。

本日も教育にかかる分野についてたくさんの議題があるが、真摯なご議論をどうぞよろしくお願ひしたい。

## 議題 1 平成 29 年度各校の運営に関する計画（区依頼事項振り返り）

## 議題 2 平成 30 年度各校の運営に関する計画

榊原課長

議題 1 について、平成 29 年度各校の運営に関する計画に盛り込んでいただいた中で、区から依頼していた睡眠習慣改善にかかる取り組み結果について掲載している。議題 2 について、平成 30 年度も引き続き区から睡眠習慣改善にかかる取り組みについて依頼しており、各校の第 1 回学校協議会で議論いただき決定した内容を掲載している。この取り組みは、元々各学校の方で生活習慣改善について取り組まれている中で、子どもたちの睡眠が心配との意見があり、オール淀川区で取り組んではどうかとの提案を受け、区と学校でタッグを組んで取り組んでいるもの。

また「淀川漢字名人育成計画」は、中学校の校長会から基礎学力の向上のために漢検の取組を区としてもサポートしてほしいとの意見により実施したもので、運営に関する計画に盛り込んでいただいている。

すべての学校の取り組み状況について、紹介することは時間的に難しい。また、事前に資料を送付させていただいており、ご確認いただいているかと思うので、議題 1・2 について感じたことや、今後の取り組み

についてご意見いただきたい。

#### 坂井委員

相変わらず「取り組み・指標・目標」に何を設定すればいいか各学校でわかっていないのではないかと感じる。この間、学校協議会委員に研修を行っているので、協議会委員の方がもっとわかっているのではないかと感じる。とくに指標の設定が全くできていない。目標についても、指標と同じところがあるが、指標と同じ目標はありえない。記載方法等について学校の理解を深めていかないと、きちんと運用できないのではないかと。内容について、進捗状況がCというのは基本的にありえない、今年は何を何回やるというのが指標だが、進捗状況がCということは何もやっていないことになるので、きちんと確認していかなければならない。

漢字検定の記載について、指標・目標の記載がない学校がある。制度自体の理解が非常に不足していると感じる。せっかくPTAと区で委員向け研修を実施し、とくに前はクイズ形式でわかりやすく、すごくいい研修であった。先生方も忙しいとは思いますが、是非研修に参加してほしい。

#### 榊原課長

平成29年度の運営に関する計画については、平成29年度第3回の学校協議会で確認いただいた結果だが、議事録を確認すると委員から指標と目標が入れ替わっているというような指摘が数校であり、学校協議会の場でも議論が行われている。いただいた意見について、ヨドネルや漢検のみの問題ではないので各学校の方にフィードバックしていきたい。

#### 増田委員

新東三国小の学校協議会で出た意見について紹介させていただく。睡眠習慣改善というのは、学校だけで取り組むものではなく、各家庭も地域も皆でバックアップしていくために学校協議会で議論していると思っている。指標・目標等の課題について、学校だけに対してフィードバックしていくのではなく、地域・保護者すべてに改善していく必要があると呼びかけていくべきではないか。そもそも夜寝るとか朝起きるとかは各家庭の中での責任だ。せっかく学校協議会があるので、そこへもフィードバックする等してほしい。このままでは子どもたちの睡眠についての責任が全て学校にあるかようになってしまう。

#### 山本次長（区長）

新東三国小だけでなく他校でも議論になっていたかと思う。不登校のことについても学校側の責任のようになるのは正しいのかというような意見も出ていたので、そういう視点ももつ必要がある。

#### 榊原課長

前回の会議で増田委員から、ヨドネルについて有名アスリート等が睡眠の大切さについて、モデルケース等を示して共感を生むような取り組みが出来ないかとご意見いただいている。まだ計画段階であるが、サッカーやバスケットボールのプロスポーツクラブへ働きかけをして、何らかの形で体験談を児童生徒や保護者へ伝え共感を生むことでヨドネル運動を広げていきたいと考えている。さらに、話が固まるかどうかはわからないが、睡眠について取り組んでいるある企業から大阪市（経済戦略局）との連携について話があり、ヨ

ドネルについて淀川区とのマッチングの提案を受けている。相手方とまだ話をしていない状況なのでどうなるかわからないが、産・官・学の取り組みへと繋げていきたいと考えている。各校長からも今後のヨドネルの方向性について聞かれている。色々な取り組みをしていきたいと考えている。

#### 増田委員

ヨドネルの取り組みについて、保護者へ子どもたちの身体を守っていくためには睡眠が大事なんだというように形に繋げて行ってほしい。前回の会議で申し上げたが、子どもたちが自分たちで勉強してそれを発表するような学びの場を設けてほしい。

#### 山本次長（区長）

以前、田川小学校で子どもたち自身が研究して発表するという場があった。（私は）予定があり聞けなかったのが残念だった。先ほどのプロアスリートの取り組みについて、これまで睡眠をどれだけ大事にしてきたかというようなことを、子どもたちにインタビューしてもらうことが出来ないかなと考えている。

#### 久保委員

先日、（市立大学の）水野先生に来ていただいて講演会で保護者と一緒に5・6年生も講演を聞いて学んでいたのも、すごくよかった。その時に講演内容のデータであるとか何か資料をいただけるとありがたい。聞くだけでも勉強にはなるが、メモを取ってはいるがペーパー1枚でもあれば見返す時に思い出しやすいし、広がっていきやすいのではないかな。

#### 榊原課長

水野先生や市大にお願いするようにしていきたい。

#### 久保委員

資料1の新高小の取り組みで12月に「健康週間」を設けたとある。難しいとは思いますが、区でヨドネルウィークとか睡眠週間の設定をしてはどうか。春の睡眠の日（3月18日）や秋の睡眠の日（9月3日）という日があるらしい。学校は忙しい時期だと思うが、それに合わせたり、2学期が始まる前に夢さんの夜回りと連携してヨドネルウィークを設定してはどうか。

#### 小寺委員

一昨年、新高小で水野先生に講演してもらった時には、水野先生に頼み込んでデータをいただき、PTAで資料を印刷した。とてもわかりやすかった。昨年、新高小で睡眠ウィークを設定し、保護者・PTAで季節ごとに睡眠について発信する新聞を作成した。冬は子どもたちと一緒に新聞を作った。季節ごとに睡眠を取り入れた健康のことについて区からよどマガ等で大きく発信していくのはどうか。

### 議題3 次年度事業に向けたブレインストーミング

#### （1）平成31年度事業についてのアイデア出し

## 榊原課長

次年度事業に向けたブレインストーミングとして、教育行政連絡会で校長先生方から出たアイデアを資料にまとめている。

小学校では、漢字検定の実施、有識者を呼んでの放課後学習会における講師謝礼の補助(ドリームルーム)、校内防犯カメラの設置、小学校入学サポートプログラムといった入学前の保護者を対象に不安を解消するようなプログラムの導入、ヨドネルについては先ほど話した内容、教職員の負担軽減の取り組み、人材バンク、発達障がいサポートの枠拡大、スクールカウンセラーの配置などの話が出ている。スクールカウンセラーの小学校への配置については今年度から拡充している内容での継続の要望がある。

中学校では、漢字検定の継続実施。一過性のものではなく数年にわたって継続して効果検証していかないといけないとの意見をいただいている。

### (2) 運動が苦手な子どもへの体力向上の取り組みについて

### (3) 区事業PRの取り組みについて

## 榊原課長

区政会議の部会では、「運動が苦手な子への体力向上の取り組みが必要ではないか」と意見をいただいている。さらに、同じ会議で「淀川区がこんなに教育についての取り組みをしているとは知らなかった、もう少しPRしてはどうか」とのご意見をいただいている。

各委員の皆様から、これらの内容を踏まえてでもいいし、新たにこんなことをやったらどうかとか、こんなのがよさそうだというご意見をいただければありがたい。

ちなみに、運動が苦手な子への体力向上の取り組みについては、大阪市立大学の研究材料としての事業連携というのがあったので、エントリーしている状況。まだ話し合いが始まったところだが、市大側も興味をもってくれているようだ。恐らく来年度予算に向けての検討となると思う。

## 小寺委員

昨年、新高小の3年生だが、何曜日の休み時間は「全員遊び」の時間と設定していた。その時間はクラスのみみんなで全員遊びする時間だから、何をするか(ドッジボール等)を決めてみんなで外で遊ぶというもの。子どもたちは、それをすごい楽しみにしていたので、こういう思い切った取り組みもいいと思う。

## 坂井委員

体力向上の取り組みについて、教頭先生に聞いたことがあるが、体力テストで「反復横とび」とか普段あまり経験していない種目のスコアが悪い。体力テスト向けの内容を事前の体育の授業で実施すれば、100%の力が発揮できるのではないかと思う。

## 増田委員

ドリームルームについて、社会学習の機会を子どもたちにもってもらいたいという主旨。講師料が払えるようになれば世話人みんなが思っている。これまでは単発で講師を呼んでいたが、今後は複数回呼んでより成果を得られるような取り組みとしていきたいと考えているので、是非お願いしたい。

また、この中で体力づくり(腹筋・反復横とび等)についても取り組んでいければと思っている。学校協

議会の中で、昨年度、腹筋のスコアが特別弱かったという話になり、これは力というよりサポートする側が、足の持つところとかちゃんとわかっていなかったのではないかという意見もあった。指導する必要があるのかなと思うと同時に、子どもたちがもう少し野性的であれば、いろんなことを考えるのではないかという話になった。昔のように遊び場で昔やっていたような遊びをしなくなっていることも要因かもしれない。予算の中で遊び場についても検討してもらえればと思う。

### 辻川委員

野中小は区内で一番運動場が狭いが、体力は徐々に上がってきている。校庭が狭い分、先生方が工夫していることがある。校長先生がサブグラウンドに移動式の鉄棒を導入して、子どもたちが遊びの中で利用しているので非常にいいと考えている。さらに出前講座を積極的に活用しているのも結果にあらわれていると考えている。

区役所をお願いしたいことは、出前講座以外で講師をお呼びする時に、大阪市は講師への謝礼単価がとても低い。こんな方をお呼びしたいとなっても謝礼単価が低すぎることで、来ていただける講師の幅がとても狭くなる。単価の幅をもう少し緩やかなものにしてほしい。そういう部分での補助もお願いしたい。

ヨドネルについては、学校の責任ではなく地域もサポートはするが、主体は保護者、そこにどう発信していくかがとても大事。PTAの行事等で夢ちゃんと同じように「夢さん」(ヨドネルのキャラクター)を作って、みんなで寝ようよという呼びかけを保護者が主体となってPRできれば、責任を学校に押し付けることもなく認知度も上がるのではないか。

### 泉水委員

夢さんについて、ふるさと納税を募集して寄附者に夢さんステッカー配付するという手法もある。

### 榊原課長

講師謝礼については、大阪市一律で基準があるが、いただいた意見については上限撤廃等も含めて意見を上げていきたい。夢さんについても、考えていきたい。

教育行政連絡会で、子どもが小さいときから保護者も含めたサポートをしていく必要があるという意見があった。大阪市としては、「ネウボラ」というものに今後取り組んでいく予定となっている。この件について、保健・子育て支援担当課長の川谷より紹介させていただく。

### 川谷課長

ネウボラという言葉の語源はフィンランドにあり、アドバイスする場所という意味がある。フィンランドでは妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない子育て支援をワンストップで行っている。大阪市においてもこういった制度に取り組んでいくという方針になっている。現在は、区長会議の子ども教育部会で6月に旭区長をリーダーとしたワーキングチームを創設し、実務者会議も立ち上がったので、これから議論していく。

区の状況について少しお話しさせていただきたい。当区での妊娠の届出は約1,800人、出生は約1,500人で24区で1番多い。当区は保健部門と子育て支援部門が同じフロアで業務をしており、妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない子育て支援を実施している。出生後の状況については、新生児の80%は助産師が訪問、未熟児や心配なことがある新生児の20%については当区の保健師が訪問することで、全戸訪問し支援を

行い、安心して子育てできる地域づくりに努めている。

#### 榊原課長

今の動きについて紹介させていただいたが、今後動きがあれば、皆さまにお伝えしていく。

#### 松村委員

睡眠のことについても同じだが、小学校に上がってきた保護者に睡眠が大事だといくら言っても、生活習慣がある程度出来上がっているのが理解してもらうのが難しい。やはり生まれた時から、睡眠は大切だということに認識してもらい、小学校に入学してもらうのがよい。ネウボラ等の取り組みの中で是非ということも伝えていってほしい。乳幼児期の方が子どもへの親の関心もすごく高いので、幼稚園に入る前後に連携して取り組んでいってほしい。

#### 山本次長（区長）

まさに松村委員がおっしゃったことだが、乳児期から成長段階に応じて子どもをトータルに把握することはもちろん、保護者の方にもいろいろ指導していくシステムを区全体でできれば学校現場はもっと楽になるはずとの提案が小学校の教育行政連絡会であった。その回答の中で、市長が取り入れようと言っていたネウボラの紹介をした。大阪市では保健福祉センターを各区に設置していて、そういうシステムは出来ている。人事異動等もありずっと担当するという事は難しいが、担当が変わってもチームとして携わっていくことを伝え、成長段階に合わせて指導もしていくというシステムをもっと育てていこうということだ。これからこういう方向で取り組みを進めていきたい。

#### 松村委員

意外と小さい子は早く寝ていない。お父さんの帰りを待っていたりして遅くなる子が多い。その生活習慣が小学校に入ってもそのままのことが多い。

#### 小寺委員

子どもに寝た時間を書いてもらうことがあるが、11時、12時という家庭が結構ある。個々の家庭にいろいろな事情があるので、すごく言いすぎてしまうと潰れてしまうのではないかと感じる保護者も多くいる。子どもが小さい時期に発信していくことはすごく大事だと思うが、保護者が追い詰められないようにどう発信していくかというのを幼稚園の先生や保育士、保健師たちで話し合っ決めていく必要がある。

#### 増田委員

子育て支援期から小中に進む教育支援期になるときの繋ぎというのは、今は切れ目のない形になっているのか、今後なっていく予定なのか。フィンランドのネウボラにおいても、小中に進んでも切れ目のない担当制になっているのか。

#### 山本次長（区長）

まだそこまでしっかり勉強できていないが、日本でいう小学校レベルで終わりというシステムではない。

成人してまでということではないと思うが、もう少し長いスパンで考えているもの。大阪市では、今でも児童虐待等について小学校に入学したら一切関わらないというようなシステムではなく、オーバーラップしているが、それをもっと担当的に出来るのではないかという方向で進めている。

#### 増田委員

是非、進めていただきバトンのように落とさずにタッチしていけるような仕組みにしてほしい。

#### 川谷課長

保健師部門と子育て部門が同フロアにあることで連携を密に取れている。母子手帳を取りに来られたら、保健師が個別面談を行う。その後も乳幼児健診等の様々な機会に接触している。そこで気になるお子さんや保護者がいれば子育て支援部門と連携している。学校に入学する前の相談を受けることも多いが、家庭児童相談員を配置しているので、色々な情報を伝えたり、相談に乗ったりしている。今でも連携はとれているが、もっと系統的にきっちりしたものにして、制度を多くの人に知ってもらうことで、よりよい支援が出来るのかなと感じている。

### 議題4 教職員の負担軽減に向けた取り組みについて

#### (1) 自動音声ガイダンスについて

#### 榊原課長

報道発表資料ということで、5月1日から自動音声ガイダンスによる対応をしていく旨、挙げさせていただいた。この取り組みについては淀川区から教育委員会に、教員の方々の忙しい理由として時間外に保護者の方からの電話が長引くことを伝えたので、自動音声ガイダンスを流すこととなった。当初、学校の先生方からは、緊急連絡の場合はどうなるのかとか、かえって連絡方法についていろいろトラブルが生じるのではないかといったご心配もされていたが、実際始まってみると、教育行政連絡会での議論の中では心配するほどトラブルがなく進んでいるので、良い取り組みではないかと言っている先生もいらっしまった。このように学校側からの状況は聞いているが、地域や保護者側の受け止め方がどうなのかについて、この場でお伺いできればありがたい。また、これに関わらず、教職員の負担軽減についてのお考えやご意見、ご質問があればいただきたい。

#### 松村委員

自動的にその時間になったらセットされるようになっていないので、「今日はセットするのを忘れていた」とか保護者が学校へ欠席の連絡をしようと思ったら、ずっと教頭先生の声が流れてきたとかがあったようだ。慣れるまでだったかもしれないが、そこは自動でできるようにしていただければよいのかなと思う。自動的にそうなると言えば、先生方も保護者に対する説明もしやすいと思う。「忘れてただろう」みたいに言われると、結局言われることが増えて、何のためにやっているのかわからなくなる。

反対に、遅い時間にならないと先生の手が空かないのに、その時間には学校に電話が繋がらないことは若干気になる。結局、その時間までいるということ自体が先生の負担が多いということかもしれないが、電話をかけても繋がらないとわかっているのに、早めに電話をして「手が空いたら連絡をください」としか言いようがない。



## 榊原課長

校長先生方との教育行政連絡会での議論や子ども教育会議の議論の場で教育委員会に投げかけるべきものについてはまとめて投げかけていく。今までもそうしてきたが、今回もそのようにしていきたい。

音声応答装置をできれば自動でセットできるようにしてほしいというご要望は先生方からも、保護者の方々からも出てきているので、教育委員会に投げかけていきたい。先生方への連絡方法については、どうしても今までよりは不便になってくるとは思うが、ご理解いただきたい。

## 増田委員

新東三国小の学校協議会では、業務時間外なので当然ではないかという意見が出ていた。ただ、言っておられたのは保護者の方ではなかったもので、違う意見があったかもしれない。責任は家庭にあるのではないかという話があって、子どもが戻ってこないのであれば、警察に連絡するものだという風になっていかないと、先生の負担は軽減しないのではないかという意見があった。先生の負担をどうしたら軽減できるのかという意見は、いつもいろいろな場に出てきている。がぼっと軽減できることがあるといいなと思う。

## 榊原課長

中学校の方では長時間勤務の一つの要素として部活動がある。顧問の方々が指導しなければならないので、どうしてもその分勤務時間が長くなる。今、教育委員会の方で補助する人の募集を進めている。現在、予定人数には届いていないが、応募はあるようだ。今までの部活動補助をしていただく立場の方は、どこかの学校に遠征に行く場合、顧問の先生と一緒にいって行かなければならなかったが、今回は、補助をしていただく方だけで連れていける仕組みにしていこうというものだ。従来、1日当たり何時間まで、部活動は何時間まで、1週間当たり何日は休みましょうといったガイドラインがすでにある。しかし、大会で良い成績をとってほしいとか、生徒自身をもっと練習したい、保護者側からもっと強くなってほしいとかいう意向がある中で、学校で部活休みを作っていくのはなかなか難しく、そのあたりをしっかりと進めていく必要があるのではないかという議論もされており、そのような動きも一部にはある。

## 出口委員

音声ガイダンスの電話の件についてだが、先日の震災の折、学校に電話が全く繋がらなかった。学校によって対応はまちまちで、休校になった学校もあれば、一時的に子どもを預かっていただいた学校もあった。私たちはPTAとの兼ね合いがあるので、学校や先生と直接連絡をとりあったりできる状態だったが、一般の保護者は学校になかなか連絡がとれない状態だった。ホームページを見てもサーバーがダウンという状態であったが、そうなった場合にどういう対応をすべきなのか、もう一度対応を見直さなければいけないと思う。今回はこの程度で済んだかもしれないが、何年後かに大きな震災がやってくると言われる中で、どういう対応をしていくのか見直す必要がある。音声ガイダンスも一つかもしれないし、今回で言えばLINEなどのSNSが問題なく通じたので、そちらにも目を向けた方がよいのではないかと思う。

## 山本次長（区長）

今回のように、緊急時に休校にするのかといった場合に、区も正直、想定外でなかなかうまく動けなかつ

た。教育委員会も何かと混乱していた部分があった。どちらかと言うと、危機管理室も区で判断してほしいとか、教育委員会の方もある程度学校で判断してほしいとかいう意向があった。また、市長の判断がなかなか現場においていなかったという事態も起こった。今おっしゃられたように、SNSでお知りになった保護者の方が学校に問合せしても、学校には連絡が来ていないので、何を言われているのかわからないといった状況があった。今回の地震によって各区でいろいろ出てきた課題を全区的なものと同区固有のものに整理し、一旦、発災後1週間後位で危機管理室に各区からとりあえずあげているが、先週の防災関係の区長部会である安全・環境・防災部会の資料には全区と各区とで整理された課題や問題がたくさん出ている。淀川区の問題ではなく全市で抱える問題だと思うので、しっかり危機管理室と連携していきたい。ルールがあってもパニックになってなかなかできないものなので、ルールすらなければバラバラな対応になってしまう。ある程度状況に応じた判断も必要になってくるだろうが、やはり基本的なルールはきちんと整理していかないといけないと痛感している。先ほどの出口委員からのご意見もしっかりと反映していきたい。

#### 榊原課長

震災のお話が出たので、震災にからんで危機管理についてお気づきの点やご意見があればお聞きしたい。

#### 泉水委員

先ほどの連絡の仕方について、防災無線を教育現場も活用できるようにしておいたら、すぐに連絡がつかないだろうか。各学校にあると思うので、いかがか。

#### 榊原課長

おっしゃっていただいたように、防災無線はあるが、実際の地震時にうまく活用ができなかったことが今回の一つの課題だ。今後は学校との連絡も含め、防災担当と連携してやっていきたい。

#### 山本次長（区長）

結構、区民の方からのご意見もあった。防災無線は今、統一的な内容しか出せない。これを個別にできないのか、あるいは普段からきちんと音が届くように高い所に置いて全部に届くようにできないのかというご意見もいただいている。今回、少し前に一斉に防災無線の訓練を行ったが、何を言っているのか聞こえなかったとも指摘された。今回は活用すらできていなかった部分があるので、これは大きな課題だと思っている。

#### 辻川委員

関連するが、いつもクレームがあって困るという防災無線を活用した子ども見守り放送について、何もないからクレームがあるのだと思う。実際に災害が起こって、今回は使わなかったということもあるが、課題を追求しながら区民が安心できるようなまちづくりにならないと、防災無線はただの下校時の早く帰りなさいと言うだけのものに終わってしまう。実際に近隣の市町村の中でもいち早く無線を使って誘導したという例もあるので、区だけではなく市自体の危機管理をもう少し考えないといけないと思う。

#### 増田委員

私たちのところでも防災無線はもう少し有効活用できたのではないかという意見があった。もっと混乱し

た時、何も文明の力が使えないとなった時には旗を出すとか、そういうことを予め決めて、その旗が立ったら、受け渡しが始まるとか、赤旗や黄旗とかで対応していかないと無理だと思う。放送が鳴ったら注意をしていて、自分の校区はどうなのかを平時に予測しておくことしかないのかなと思う。

私たちの新東三国の地域が一番北摂に近く、小学校もかなり破損した。通学途中の子どもたちが一人で発災の場にいたということで、今でもエレベーターに一人で乗れないとか、一人で学校に行けない、放課後一人で留守番ができない状態がまだ続いているようだ。あの後、テレビではこれから本震が来ると言われ、大人はそれに対してある程度備えをしたが、小さな子どもたちは大人の普通でない状態を敏感に感じていたなと強く感じた。地域でそういう部分をケアしていく必要があるなと思い、これから防災訓練をするので、次は最初に一時避難場所に集まって学校に行くことになっているが、また少しおさまって在宅で避難する、帰るとなった場合にも、ある程度しばらく大人と子どもと一緒にいる時間を設けられるようにしてみようと考えている。小学校のように大きくなくても「子ども避難所」のようなものを地域の中に設けていくことは大事だなという話をしている。今年度はそういうことをやりたい。

### 榊原課長

ありがとうございます。区の中で共有していきたい。

### 久保委員

この前の地震の時に見守りをやっていた。北中島小学校付近は御堂筋線が通っており、駅の下に大きい道路があるので、駅のところを通過して通学路になっている。ところが、電車が止まったために入れなくなり、子どもたちが戸惑っていたという話を聞いた。通学途中でまさかそんなことがあるとはといった感じだと思う。日頃の備えは自分なりに考えていたが、いざとなったら全然動けなかった。特に一人で通学する子はとても不安だったと思う。(休校で) 帰りのことも学校メールでほとんどの方が知ったので、先生方もきちんと安全を確保し、集団で自宅まで連れて帰ったり、きちんと子どもの受け渡しをやっていただいたのでよかったが、日頃自分が考えていることが全然できていないなと改めて反省した。夕方、学校に行くと区役所の方がいらして避難所開設をずっとしてくださっていた。実際にこれから起こると言われている南海トラフの時に、まずは自分、そして家族、次に避難所開設の担当になっていた場合、いつどのタイミングで避難所開設に関わったらよいのか、今後ありうるだろうという意味で地域の方と話し合っていないなと思った。

### 山本次長（区長）

私も不勉強で申し訳ないが、北中島の方で通学路が閉鎖になって困ったというのと同様のことが港区でも起こり、困ったと聞いた。特に地下鉄では地震が起これると、とにかく追い出すというか、外に出てくれとなった。港区の話では、そこは地上駅だが、外に出てくれという指示で大阪メトロの駅員が近くの小学校を避難場所だと伝えたために、子どもにしてみれば、何百人もの全く知らない人たちが学校敷地に入ってきて大変なことになったという事例があった。全く事前の連絡もなく小学校に誘導すれば、パニックになるだろうと思う。この点も課題だと思った。

避難所開設の点も、ある程度の地域にはMCA無線機を何人かに持っていただいていたが、その連絡網を使って連絡しようとしたところ、その人しか使っていないために結局連絡がつかなかった。今おっしゃられ

たように、どのタイミングですればよいのかはつきりわかっていなかったし、私たちもきちんと指示ができていなかった。今回は、淀川区の職員ではないが近くに住んでいるということで淀川区に集まってくれる直近参集者の市職員がそこそこ来てくれたので、とにかく鍵を渡して小学校に行ってもらおうようお願いした。実際に区役所の人間が集まっていない時に頼れるのはやはり、鍵を預かって近くにお住まいの地域の方々だと思うので、どのタイミングで行っていただいてどう判断するのか、きちんと決めておかないといけないなと、先日の地域活動協議会の会議でご指摘いただいた。

#### 辻川委員

大阪府立東淀川高校のコンクリートブロックの塀についてだが、鉄棒が見えたり、いびつになって壊れそうだ。その壁に「地震の折には近くを通らないでください」とA4の紙に書いて貼ってあるが、あれでよいのか。淀川区にありながら、府立だからいいわというのではなくて、区民も区民以外の方も歩かれるので、改善策を考えた方がよいと思う。

#### 山本次長（区長）

A4の貼り紙は今回の地震後に貼られていたものか。

#### 辻川委員

わからないが、一昨日に用事があり、帰りに見たら、これは何かと思った。

#### 増田委員

前は貼ってなかったと思う。多分、震災の後、「ここは避けて通ってください」と書かれたと思う。

#### 辻川委員

ブロックもいびつになっているので、危険だ。

#### 榊原課長

貴重なお話ありがとうございます。情報収集する。

### 議題5 情報提供

#### （1）学校協議会委員研修について

#### 榊原課長

学校協議会委員研修について毎年2学期と3学期頃の2回開催させていただいていたが、2回目の方の参加人数が少ないということもあり、PTAの方々と意見交換する中で、1回でいいのではないかと落ち着いた。なおかつ、新任委員向けに特化した資料で実施してはどうかというご意見をいただいております、そのように進めていきたい。

#### （2）子ども見守り放送について

#### 榊原課長

子ども見守り放送について賛成のご意見がほとんどだが、うるさいというご意見もあるので、若干内容をリニューアルしていこうと検討中である。音楽が不評のようで、最初に少し音楽を流してナレーションだけにしようかと考えているので、ご理解いただきたい。

#### 榊原課長

最後になったが、校長先生にせっかく来ていただいているので、震災の関係で気づかれたことや教職員の負担軽減に対する思いなどがあれば、お話いただけたらありがたい。宮脇校長先生、いかがでしょうか。

#### 東三国中学校 宮脇校長

震災の日、割と早くからほとんどの先生が出てきていた。休校が本当に良い措置なのかどうか疑問に思っている。登校してきている子どもは運動場に集めた。休校よりも学校にいた方が安全な場面があったり、保護者もお仕事をされていたりするので、何かあったら何でも休校と判断してよいのか難しいところだと思った。地震が起こった時間帯もあるが、時間帯によっては、学校にあるいは家にいなさいという判断が必要だと思う。小学校と中学校とは若干違うかなとも思うので、判断に苦しむところだ。教育委員会からもメールは来るが、携帯とは違うので、いつ来たかわからない。だからと言って、5分おきにメールをチェックするわけにはいかない。地震の時は教育委員会から電話があったわけでもなく、メールを出していると言われても、頻りにチェックすることは難しい。連絡や情報共有の仕方は一番大きな課題だと思う。保護者にどう連絡するかも課題だ。近隣の小学校に聞くと、子どもを連れて帰るといって保護者がたくさん来て結局授業をできる状況ではなかったために、休校にした学校もあり、学校によって様々な状況だった。安全を確保して子どもを学校にずっといさせた方がよかったのか、意外と動けないものだと改めて認識した。今日はいろいろな方々の生の声を聞かせていただいたので、参考にして、場合によっては教育委員会に問合せしながらやっていきたいと思う。

#### 北中島小学校 俵校長

震災の件では、担当指導主事に電話をしたがつながらず、たぶん電話による指示はおりてこないだろうと判断した。運動場に子どもたちを避難させていたが、給食室からガスがつかないと連絡があった。給食が作れないとなれば、いずれにしても子どもたちを保護者に返さないといけない、保護者に早く連絡しないといけないと判断した。心配な保護者もたくさん来ておられたので、子どもを引き取っていただいた。普段から集団下校については何度も訓練しているので、家に保護者がいる可能性のある子どもについては、その隊形に子どもたちを並ばせ、教員が手分けして自宅まで連れて帰った。自宅に保護者がいない子どもについては講堂で待機させた。なかなかお迎えが来ない子どもについては、最初は講堂にいたが、時間を持て余していたので、ビデオ鑑賞をしていた。しかし、時間が経つにつれ不安で落ち着きがなくなってきたので、外のライブラリーパークで気分転換をしたりしていた。そうこうしているうちに、結果的には午後1時過ぎに無事、全ての子どもたちを引き取ってもらった。これが良いのかどうかかわからないが、もしもの場合に備えて、コンビニへおにぎりやパンを買いに職員を走らせた。今回の震災では、教育委員会の指示を待って動くことは無理だと判断し、自分で判断した。休校のFAXもいつ来たかわからない状況だった。今日は厳しいご意見もいただき、とても勉強になった。

ヨドネルに関して申しあげると、本校では「睡眠強調週間」があり、1・2学期の懇談で何時に起きて何

時に寝ているかを書いてもらい、大変前向きなコメントをいただいている。睡眠強調週間があるおかげで、改めて睡眠について子どもたちと一緒に考え、話ができると書いていただいた。教職員も喜んでおり、それを励みにしている。それも保護者の方々が協力していただいているからこそで、この睡眠強調週間をきっかけに睡眠のリズムをつくることができていると思っている。

#### 榊原課長

本日の議題以外でも何かお気づきの点があれば、いつでも教育支援担当までご連絡いただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

最後に、坂井委員が今回で任期最後の会議となる。坂井委員におかれては平成 27 年度の子ども教育会議発足当初からご尽力いただいた。ご挨拶をいただければ幸いだ。

#### 坂井委員

結構長くやらせていただいたというのが率直な感想だ。先日の震災、これは絶対に今後活かしていただきたいテーマなので、是非ブラッシュアップしていただきたい。メール、ホームページ、電話は完全にストップすることが多く、やはり災害の時は SNS が強い。今どきは皆さんがスマホを持っていらっしゃるの、基本的に職員（教職員）は登録しておくようにし、そこに専門的な情報が来るようにすれば、わざわざメールをチェックする必要はないと思うし、FAX が届いているか見に行く必要もない。いろいろなチャンネルで信頼できる情報を発信できる、受信できる体制にしていきたい。増田委員がおっしゃった旗をあげるのもありだと思う。かなり古典的だが、例えばのろしならもっと遠くからでも見える。

是非、この子ども教育会議のような場を継続していただきたい。ありがとうございました。

#### 榊原課長

ありがとうございます。本日の子ども教育会議を終了させていただく。ありがとうございました。